

# COOP Calendar

3月号

March 2019

Vol.152



村井嘉浩宮城県知事との懇談会



2018年度消費生活協同組合役員研修会



芳賀唯史県連顧問の厚生労働大臣表彰受賞を祝う会



2018年度IYC学習会

## CONTENTS

県連役員エッセイ……………1 松木弥恵理事「もうすぐ春が」 宮城県生協連の活動……………2 ・県内6政党との懇談会を開催 ・「2018年度監事研修交流会」開催 ・三重県生活協同組合連合会視察研修の受入報告 ・「平成30年度東京電力福島第一原発事故対策みやぎ県民会議幹事会」参加報告 ・日生協主催「家庭用エネルギー学習会」参加報告 ・村井嘉浩宮城県知事との懇談会を開催 ・「2018年度消費生活協同組合役員研修会」開催 ・県連顧問芳賀唯史さんの「厚生労働大臣表彰受賞を祝う会」開催	復旧・復興のとりのくみ……………8 みやぎ生活協同組合 会員生協だより……………9 みやぎ生活協同組合 生活協同組合あいこぷみやぎ 松島医療生活協同組合 東北学院大学生協同組合 宮城学院生活協同組合 協同のとりのくみ……………12 地産地消のとりのくみ……………13 平和のとりのくみ……………14	環境のとりのくみ……………15 消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動…16 消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動…17 NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体 ネットワークみやぎの活動……………18 適格消費者団体NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動…19 宮城県ユニセフ協会の活動……………20 公益財団法人 MELONの活動……………21 行事予定……………22 新聞記事紹介……………23 資料……………30
---	---	--

## 「もうすぐ春が」

宮城県生協連理事 松木 弥恵

(みやぎ生協地域代表理事)



一年の経つのがとても早い。誰にでも時間は平等だけれど、いつも何かにせかされているように感じている。震災から特にそう思っている。

先日、復興公営住宅で開催されているお茶会にお邪魔した。十数階建ての建物ができたころは、整備された公園が見え、陽当りも良く、交通の便も生活の便利さも羨ましい立地だと感じたのを今も覚えている。しかし、ほぼ3年が過ぎて、南側にも北側にも東側にも建物が建ってしまった。自治会長さんは、「わたしたちはだまされた！開発計画はきっと何年も前からあったのだろうに、それを誰も教えてくれなかった」と。「終の棲家と思って引っ越したのに、気持ちが萎んでいく」と話されていた。

私の家というのは、集団移転の新しい住宅街にある。荒浜はもう住めなくなったので、仙台市から借用した土地に家を見て住むことになったものだ。南東側の通路を挟んだ東側は公園に

なる計画で、この4年楽しみに待っている。

整地された空き地に次々と家が建ち、震災前ののどかな田んぼの面影もなくなり、コンビニ、ファミリーレストラン、ドラッグストア…次々と看板が立って夜でも明るい地域となった。

宮城県内では仮設住宅から、皆が住処を変えることができたが、次の土地での近所付き合いやコミュニティーづくりは、昔住んだ地域のようにはいかない。

皆8歳年を取り、子は成長し、社会や環境も変わっていくのに、時代についていくのがやっとならないか。きちんと地に足を付けた生活を送れているか、自問自答の毎日である。

被災者と呼ばれることも少なくなってきたけれど、ママ友に会うたび、ご近所だったお年寄りに会うたび、そして語り部ボランティアとして通う小学校の子どもたちに会うたびに、8年前のあの寒く不安だった真っ暗な夜

と、次の日、徒歩で避難してきたときの夕焼け空を思い出す。また、励まし合って暮らしたプレハブ仮設住宅や、喫茶をひらいてくれたみやぎ生協のみんなの顔も。

世界中の人とつながって絆を感じ、感謝でいっぱいになった気持ちを、これからはどうあらわしていこうか…。

広島や熊本を訪ねて話を聞き、手を握り合って明日の事を話すとき、心のどこかで何かの力が響いた。相手の手の暖かさが自分の手のひらからしみていくような。その温かさを忘れず、毎日を楽しみ、家族や友人と笑って過ごす時間の中、毎日の生活の小さな喜びから恩返しのヒントを見つけていきたい。

愛猫の背をなでながらそう思う春近い日々である。



# 宮城県生協連の活動

## ● 県内6政党との懇談会を開催

県内6政党の役員と宮城県生協連役員による「2018年度政党懇談会」を以下の日程で開催しました。

宮城県生協連から、安心して暮らせる地域づくりに向けた活動、大震災からの復旧・復興へ

の取り組み、会員生協の復興商品などを報告しました。

各政党からは、国・県・市政に関わる取り組み状況などが紹介され、有意義な懇談の場となりました。

### 【懇談会のテーマ】

- ①大震災からの復旧・復興、被災者支援の取り組みについて
- ②安心して暮らせる地域づくりにむけた取り組みについて
- ③消費者のくらしを守る取り組みについて

※開催順に掲載(敬称略)

### ▶自由民主党宮城県支部連合会

- ◇日時/1月12日(土)14:30~15:30
- ◇会場/自民党宮城県連会館会議室



役職	氏名	役職	氏名
会長 参議院議員	愛知 治郎	会長代理 県会議員	安藤 俊威
筆頭副会長 仙台市議員	野田 謙	副会長	飯岡 智
幹事長 県議員	石川光次郎	総務会長 県議員	菊地 恵一
女性局長	外崎 浩子	事務局長	入野田 博

(県生協連参加者7人)

### ▶日本共産党宮城県委員会

- ◇日時/1月19日(土)9:00~10:00
- ◇会場/江陽グランドホテル



役職	氏名
副委員長 県議団長	遠藤いく子
県常任委員	船山 由美
市議団長	嵯峨サダ子
県会議員	福島かずえ
県会議員	中嶋 廉
県会議員	大内 真理

(県生協連参加者9人)

### 【宮城県生協連の参加者】

宮本弘会長理事(みやぎ生協理事長)、大越健治副会長理事(みやぎ生協専務理事)、野崎和夫専務理事、加藤房子常務理事、渡辺淳子常務理事、蛭田美幸理事(宮城労済生協専務理事)、松木弥恵理事(みやぎ生協地域代表理事)、板垣乙未生監事(東北大学名誉教授)、松本研一郎課長

### ▶立憲民主党宮城県総支部連合会

◇日時/1月19日(土)10:15～11:15

◇会場/江陽グランドホテル



役職	氏名	役職	氏名
代表 衆議院議員	岡本あき子	副代表 衆議院議員	阿久津幸彦
副代表 県会議員	遊佐美由紀	幹事長	鎌田さゆり
男女共同 参画委員長 仙台市会議員	佐藤わか子	事務局長	山下 純
広報委員長	細野 敬士	青年部 副部長	貞宗 健司

(県生協連参加者9人)

### ▶国民民主党宮城県総支部連合会

◇日時/1月19日(土)14:30～15:30

◇会場/江陽グランドホテル



役職	氏名
幹事長代理 仙台市会議員	沼沢 真也

(県生協連参加者9人)

### ▶社会民主党宮城県連合

◇日時/1月19日(土)11:30～12:30

◇会場/江陽グランドホテル



役職	氏名
代表 県会議員	岸田 清実
仙台市会議員	石川 建治

(県生協連参加者9人)

### ▶公明党宮城県本部

◇日時/1月19日(土)16:00～17:00

◇会場/江陽グランドホテル



役職	氏名
代表 県会議員	庄子 賢一
幹事長 県会議員	伊藤 和博
県民運動本部長 県会議員	横山 昇
青年局長 県会議員	遠藤 伸幸
女性局次長 仙台市会議員	佐藤 和子

(県生協連参加者9人)

## 宮城県生協連の活動

### ● 「2018 年度監事研修交流会」開催

1月22日（火）江陽グランドホテル3階白鳥の間において、日本生協連北海道・東北地連と宮城県生協連の共催で、「監事研修交流会」を開催しました。

今年度は、参加生協の取り組み交流を重点において開催しました。東北・北海道地区の6生協から23人の監事と監事スタッフが参加しました。

東北の4生協からの監事監査の取り組み報告をいただきました。問題意識の共有や、新たな

取り組みを進めた事例などの紹介がありました。みやぎ生協からは大村泉監事に、ご報告いただきました。

グループ交流では、グループごとに話し合うテーマを設定し、交流・討議を行いました。

日本生協連法務部の岡坂充容さんから、「監事活動におけるチェックリスト」（改訂版）の解説をしていただき、そのリスト活用の有効性、意義についても学びました。



懇親会には5生協21人が参加し、交流を深めることができました。

翌日は、希望者（みやぎ生協以外の4生協13人）で、みやぎ生協ランチ仙台店の見学を行いました。

### ● 三重県生活協同組合連合会視察研修の受入報告

2月7日（木）～9日（土）に三重県生協連の役職員が視察研修のため訪問されました。

上野達彦会長理事をはじめ、生活協同組合コープみえ、三重県学校生協、みえ医療福祉生協、全労済三重推進本部、三重県連事務局など役職員9人が参加されました。

視察研修では、被災地の現在の状況を知ることと、宮城県内

の生協が地域社会でどのような役割をはたそうとして活動しているか、その実情を視察するためのものでした。

津波被害のあった名取市閑上地区の視察、みやぎ生協東日本大震災学習・資料室見学、低炭素サプライチェーン実証事業の施設見学、全国的にも例のない農協と生協の共同運営店舗であるA&COOP松島店、ファミリ

ーマート+COOP鶴ヶ谷店、松島医療生協の診療所等施設、全労済ショップの視察等を行いました。

会員生協の皆様のご協力により、研修視察の受入ができましたこと感謝いたします。

三重県生協連の広報誌では、宮城県の被災地の状況を継続的に伝えていただいています。



名取市閑上中学校の慰霊碑で語り部の話を聞く



低炭素サプライチェーン実証施設の見学



みやぎ生協本部前において

## 宮城県生協連の活動

### ● 「平成 30 年度東京電力福島第一原発事故対策みやぎ県民会議幹事会」 参加報告

2月6日(水)宮城県庁講堂において、「平成30年度東京電力福島第一原発事故対策みやぎ県民会議幹事会」が開催されました。県民会議構成団体等より58人の参加がありました。県連より、野崎和夫専務理事が幹事として参加しました。

この県民会議は、東日本大震災による東京電力福島第一原発事故に対する総合的な対策の検討や情報共有などを行うため、県内の産業界や消費者団体、有

識者、自治体等を構成員として設置されています。

はじめに、県民会議の幹事長を務める後藤康宏宮城県環境生活部長より挨拶がありました。

事務局より、①宮城県内の原子力損害賠償の請求・賠償状況について②「東京電力福島第一原発事故被害対策実施計画(第3期)【平成31年2月改訂】」に基づく平成31年度事業について③放射線・放射能の測定検査状況について④東京電力福島第一

原子力発電所の視察結果について⑤その他について報告がありました。

その後、質疑があり、賠償状況について、質問がありました。また自治体より、損害賠償の状況および要望について発言がありました。

関連報告として、東京電力ホールディングス株式会社より、福島原子力発電所の廃炉に向けた状況と損害賠償の対応状況等について報告がありました。

### ● 日生協主催「家庭用エネルギー学習会」 参加報告

2月8日(金)コーププラザ第1・2会議室において、43人の参加で開催されました。

日本生協連執行役員組織推進本部の二村睦子本部長が主催者挨拶を行いました。

その後、資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課の目黒浩課長補佐から「LPガスを巡る現状について」、石川県生協連の青海万里子専務理事から「LPガス懇談会参加報告」、北海道生協連の川原敬伸事務局長から「LPガス販売における消費者の知る権利と選択の自由を実現し、適正価格・安定供給・安全確保のために!」、北海道・東北地連の井形禎祐事務局長から「LPガス事業者WEBサイト調査/LPガス

に関する利用実態調査」、日本生協連政策企画室の大部桂一さんから「家計・くらしの調査から見る家庭用LPガス(プロパンガス)料金の状況」、日本生協連組合活動部の中村良光さんから

「LPガス料金調査について」、宮城県生協連の加藤房子常務理事から「自由化市場における家庭用エネルギーの諸問題～灯油編～」、電力・ガス取引監視等委員会取引制度企画室の木尾修文室長から「電気の経過措置料金規制について」、公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会の大石美奈子代表理事副会長から「経過措置料金規制解除への評価・要望について」、全国消団連の浦郷由季事務



報告をする加藤房子常務理事

局長から「電気料金の自由化に関する消費者アンケート結果報告と電力の経過措置料金規制に関する意見について」報告がありました。

参加者から、「LPガス料金問題は決して北海道だけの問題ではない」「組合員のくらしを守る生協がもっと情報発信すべきではないか」などの意見が出されました。

## 宮城県生協連の活動

### ● 村井嘉浩宮城県知事との懇談会を開催

2月14日（木）江陽グランドホテル 3階鴛鴦の間において、村井嘉浩宮城県知事と宮城県生協連会員生協役職員 32人との懇談会を開催しました。

懇談をとおして、県行政のトップである知事より県の施策を伺うとともに、生協の取り組みや活動を紹介し、理解を深めていただく場となりました。

はじめに、宮城県生協連の宮本弘会長理事と村井嘉浩知事より挨拶がありました。

続いて、みやぎ生協の大越健治専務理事から、安心して暮らせる地域づくりにむけた取り組みについて、みやぎ生協の緑上浩子地域代表理事から、地域での助け合い・フードバンク・家計相談の取り組みについて、生

協あいコープみやぎの鈴木真奈美理事から、プラスチック問題と紙製卵パックの取り組みについて、松島医療生協の蒲生功理事長から、健康づくり・認知症カフェの取り組みについて、みやぎ県南医療生協の安藤知理事長から、被災地支援とくらしのサポートセンター開設について、東北大学生協の宮本毅裕常務理事から、東北大学における豊かなコミュニティづくりについて、宮城大学生協の千葉樹学生生理事から、宮城大学の学生に貢献する生協であるために、宮城労済生協の蛭田美幸専務理事から、創立60周年と自然災害への対応・クリスロード店開店について報告がありました。

村井嘉浩知事から各報告に関

して感想が述べられ、行政ができない地域での互助・共助の取り組み、被災者支援の活動・生活弱者へ対応した取り組み、事業面からの環境への取り組み、高齢者に配慮した地域住民へのサポート、学内でのコミュニティ形成に向けた取り組みなど、県民のくらしに寄り添った各生協の取り組みが行政施策と協働し地域社会に役立っており、行政としてどのようなサポートが必要なのか考えたいとお話されました。

生協が県行政と協力しながら、安心して暮らせる地域づくりに向けて活動し、相互扶助組織としての役割を果たすことの重要性を認識する機会となりました。



村井嘉浩宮城県知事のご挨拶



各生協の取り組みについて感想を述べられる知事

#### 会員生協の取り組み報告者

(上段左から)

みやぎ生協/大越健治専務理事・緑上浩子地域代表理事、生協あいコープみやぎ/鈴木真奈美理事、松島医療生協/蒲生功理事長、みやぎ県南医療生協/安藤知理事長、東北大学生協/宮本毅裕常務理事、宮城大学生協/千葉樹学生生理事、宮城労済生協/蛭田美幸専務理事



懇談会の様子



## 宮城県生協連の活動

### ● 「2018年度消費生活協同組合役職員研修会」開催

2月21日（木）宮城県自治会館 200/201 会議室において、宮城県・宮城県生協連主催による「2018年度消費生活協同組合役職員研修会」が開催されました。県連会員生協など 18 生協 48 人の参加がありました。

はじめに、宮城県環境生活部消費生活・文化課鈴木文也課長の挨拶を鎌田光昭副参事兼課長補佐（総括担当）が代読しました。次に、宮城県生協連宮本弘会長理事から、開会の挨拶がありました。

続いて、公益財団法人生協総合研究所研究員の近本聡子さんを講師に、「子どもの貧困の現状と子育て支援の課題」と題して

講演がありました。

いま日本では約 7 人に 1 人の子どもが、著しく生活が苦しい家庭で暮らしており、喫緊の対策が求められています。

近本さんは、子どもの貧困の背景には『女性の貧困』があり、日本の男女平等政策の弱さや非正規労働者の増加、シングルマザー世帯への少なすぎる再分配などが要因と指摘されました。貧困の現状を変えようとする市民活動として「フードバンク山梨」の紹介がありました。子どもの貧困対策の課題として、経済的支援が後回しにされていること、妊娠期からの支援が重要とお話されました。



講師の近本聡子さん(生協総研)

その後、宮城県保健福祉部子育て社会推進室子ども・子育て支援専門監の佐々木貴子さんから、「宮城県子どもの貧困対策計画」について報告がありました。

最後に、宮城県環境生活部消費生活・文化課の五十嵐綾主査より、「消費生活協同組合指導検査結果について」報告があり、生協の運営上留意すべきことについて話されました。

### ● 県連顧問芳賀唯史さんの「厚生労働大臣表彰受賞を祝う会」開催

2月21日（木）江陽グランドホテル 4 階真珠の間において、県連主催で芳賀唯史さんの「厚生労働大臣表彰受賞を祝う会」を開催し、県内の生協関係者、元役員など 47 人が参加しました。

厚生労働大臣表彰は、消費生活協同組合法にのっとり健全な事業運営を行う協同組合並びに個人に、5 年毎に行っています。2018 年度は生協法制定 70 周年を記念した表彰が行われ、宮城県では組合表彰としてみや

ぎ生協が、個人表彰として県連顧問の芳賀唯史さんが表彰されました。

宮本弘会長理事の開会挨拶があり、宮城県知事・仙台市長・日本生協連会長からのメッセージが披露されました。

峰田優一副会長理事による乾杯の後、芳賀唯史顧問の生協運動への貢献について紹介するスライドの上映を行ない、4 人の方からお祝いの言葉をいただきました。

芳賀唯史顧問は、「一緒に働く



受賞の挨拶を述べる芳賀唯史顧問

方々に恵まれ、皆さんの代表としてこの表彰をいただいたと思っております」と挨拶をされました。

花束と記念品の贈呈を行い、大越健治副会長理事の閉会の挨拶で盛会のうちに終了しました。

みやぎ生協

● 被災地訪問に取り組み、支援や防災を考える機会となりました

みやぎ生協では、理事が担当する地域(理事エリア)ごとに、津波被災地域の変化や復旧・復興の現状を、自身の目で確かめる被災地訪問に、2013年度から継続して取り組んでいます。

2018年度は、それぞれのエリアが目的をもって訪問先を決めるなど学習を深め、計14回521人が参加しました。

4年前と同じ地域を訪問したエリアでは、復興がなかなかすすまない現状を目の当たりにして、復興の難しさを理解したり、志津川漁協やミヤカン工場・手作り団体「入谷 Yes 工房」を訪

問したエリアでは、生産者・製作者との交流を通じて買って支援につながることができました。

また福島県沿岸部を訪問し、2019年度から同じ生協のメンバーとなる福島の支援を考える機会につなげたエリアもありました。

それぞれ訪問後には、現地で学んだことを持ち帰り、訪問の様子を書き出して集会室に貼り出したり、こ〜ぷ委員会などの場で報告するなど、震災を語り継ぎ、今後の支援や防災を考える機会となりました。

(生活文化部 山田尚子)



福島沿岸部の被災地訪問の様子



被災地訪問の様子をまとめ  
掲示しました(高砂駅前店)

● 仮設住宅での「ふれあい喫茶」が終了しました

みやぎ生協が2012年1月から約7年にわたり行ってきた、名取市美田園仮設住宅での「ふれあい喫茶」が、2018年12月4日(火)の開催で終了となりました。

美田園仮設住宅は、2019年3



美田園仮設住宅で  
最後の昼食交流の様子

月末で閉鎖が決まっており、この12月にほとんどの方が転居されるのに伴っての終了でした。

2015年から毎年、交流にいらしていただいている共立社鶴岡生協の環境委員会のみなさんにも来訪していただき、いっしょに昼食を作って交流し、これまでの「ふれあい喫茶」の写真を見ながら振り返りました。

仮設住宅から転居された方も参加され、「久しぶりにみなさんに会えてうれしかった」と話していました。参加者からは「これまでの支援に感謝の気持ちで

いっぱい。新しい生活へ向かう良い思い出になりました」との声も寄せられました。

各地の仮設住宅の閉鎖に伴い、みやぎ生協で取り組んできた「ふれあい喫茶」の活動の中で、仮設住宅を会場にした開催は、この美田園仮設住宅が最後となりましたが、復興公営住宅や店舗などでの開催は続けられています。被災された方に寄り添う活動は、これからも継続して取り組んでいきます。

(生活文化部 森浩子)

## 会員生協だより

### みやぎ生協

#### ● 地域の身近な社会貢献「フードドライブ」

昨年9月から12月にかけて、「フードドライブ」の取り組みを、県内25店舗・44エリアで開催しました。メンバーが一人でもできる社会貢献活動として、地域のこ〜ぷ委員会が主体となって取り組み、今年で3年目になります。みやぎ生協のフードドライブは、カップ麺・スープ・調味料・お菓子など、店舗で購入した食品をその場でご寄付いただいています。様々な理由で困難を抱えている方を支援する活動として、活動を重ねるごとに協力して下さるメンバーが増えています。

こ〜ぷ委員会では、寄贈先から必要としている食品をお知らせいただいています。店舗などに寄贈先の団体が足を運んでくれるなど、連携した呼びかけもできました。

ご寄付いただいた食品は、2,293個になりました。これらの寄贈品は主催したこ〜ぷ委員会から直接、生活困窮者支援団体や福祉施設、社協など16団体に寄贈しました。寄贈先団体からは、「これから寒い時期に向かうので、このような寄付はとてもありがたいです」と大変喜んでいただきました。



(生活文化部 鳥田加奈枝)

#### ● 「SDGs 学習会～持続可能な開発目標ってなんだろう～」

1月28日(月)～2月7日(木)の期間、県内5会場で「SDGs 学習会～持続可能な開発目標ってなんだろう～」を開催し、100人を超えるメンバーが参加しました。

学習会は、一般社団法人SDGsとうほく代表理事の紅邑晶子さんを講師に、2015年の国連サミ

ットで「貧困や飢餓の廃絶、地球環境の保全など国際社会が協力して取り組むべき課題」として採択された17の目標について、みやぎ生協の事業や活動、自身の生活に寄せて考えるワークショップ形式で学習を行いました。学習前は「SDGsってなあに？」でしたが、学習後には「SDGsは自分たちの身の周りの事であり、17の目標達成がこれからの子どもたちの為になるんだ！」に変わるなど、参加者にとって学びと気づきの機会となりました。



講師のSDGsとうほく代表理事  
紅邑晶子さん



ワークショップ形式で学習  
(生活文化部課長 松崎勝吾)



### 生協あいコープみやぎ

#### ● ジョイケア福祉学習会「暮らしとこころの老いじたく」

12月11日(火) 太白区中央市民センターにおいて、「暮らしとこころの老いじたく」学習会を開催しました。人生をより豊かに過ごすために『暮らし編』と『こころ編』の2部構成で、30代から90代までの幅広い年齢層の40人が参加しました。

『暮らし編』は「おかたづけ屋ちいさい一歩」の山田和佳子さんのお話で、かたづけのノウハウを学びました。まずどんな未来でありたいか、どんな自分でいたいかを思い描き、要る要

らないを分けて物の位置を決めていく。台所の引出しなどの小さな場所から始め、出来たら自分を褒めてあげること！そしてシニア世代のおかたづけで大切なことは「無理しない」「捨てすぎない」「がんばらないこと」の3つだそうです。

『こころ編』はケアプランセンター木もれびの山崎彰子さんにお話を伺いました。日本人の平均寿命は男性81歳・女性87歳と伸びており、介護等で家族や周りの助けを借りている方も



シニア世代のかたづけのコツを学びました。

多いそうです。病気や介護は突然やってきます。元気に過ごしている今から公的制度を理解する等の準備をし、最後まで自分らしく生きるために、家族との日頃のコミュニケーションが欠かせないことがわかりました。

(理事 石川佳名子)

### 松島医療生協

#### ● 健康チャレンジに669人が参加！

松島医療生協「健康チャレンジ」も、今年で3年目になりました。

年々規模を拡大し、今年度は専用シート約6,500枚を、組合員や近くの施設、3幼稚園・4保育所・4小学校低学年に取り組み

を呼びかけたところ、全体で669人の方に参加していただきました(前年比115%)。これも組合員や関係団体、後援企業のおかげで、3年連続で増加となり、健康づくりを地域で広めることが出来ました。

“健康チャレンジ”に、3年連続で取り組んだ参加者からは、「今回は内容を変えて歯を丁寧に磨きました」「禁煙を今年やっと達成出来ました」「NHKの『みんなの体操』を見ながら、毎日欠かさずやりました」などの報告をいただきました。



高城支部では健康チャレンジをきっかけに、週3回ラジオ体操をして丸2年になりました。

また子ども向けの良い生活習慣を身につける“キッズチャレンジ”では「お手伝いの中身をメモに書いてやっていたのが良かった」「子どもたちからたくさん挨拶が聞けて、とても良かったです。これからも続けてほしいと思いました」など、母親や先生からも大変好評でした。

今年度はみやぎ県南医療生協でも、同じシートを使って取り組まれました。良い健康習慣を作るこの取り組みを、来年度も県内各地に広げていきます。

(本部事務局 高橋康則)

## 会員生協だより

### 東北学院大学生協

#### ● 東北学院大学生協同組合「創立 70 周年」

東北学院大学生協同組合は、1886 年開設の私塾「仙台神学校」が 1891 年に改称して誕生した「東北学院」のもとで、1947 年 7 月 9 日に「東北学院協同組合」として発足しました。その後、1987 年 12 月 22 日には、「東北



1987/10/24 開催

学院大学生協同組合」としての法人登記を經由し、今日に至っています。おかげさまで昨年度には、創立 70 周年・法人設立以来 30 周年の節目を迎えることができました。

当生協は、今や 13,000 人余の学生・教職員を組合員とする職域の消費生活協同組合です。これまでの長年にわたる学生・教職員の大学生活と教育・研究を支えてきた中で、東北学院大学固有のニーズを捉え、それに応えられる態勢を当生協は整えて

きました。

大学が土樋・泉・多賀城の 3 キャンパス体制から、4 年後の 2023 年には土樋・五橋地区の都市型「アーバンキャンパス」へと統合の歩みを進めている中で、今後とも大学の理念・目標の実現に貢献し、学生や教職員のキャンパスライフを支え続けていくために、ともに学びながら成長し続ける東北学院大学生協として、次なる 100 周年への歩みを進めていく所存です。

(専務理事 千葉公治)

### 宮城学院生協

#### ● 宮城を知る企画「マグロの解体ショー」

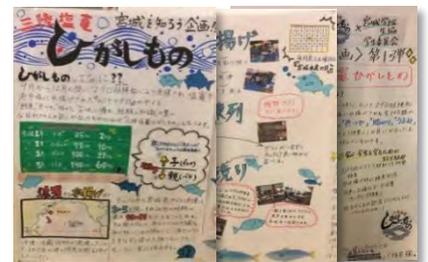
10 月 24 日 (水) 宮城学院女子大学学生食堂ピエリスにおいて、「マグロの解体ショー」を開催しました。宮城を知る企画は、学生に宮城の歴史や地場産品などの魅力を知ってもらいたいという思いから生まれた企画です。

第一弾は、同じ学内の学生団体である『楽食プロジェクト』と協力し、メバチマグロのブランド「三陸塩竈ひがしもの」を取り上げました。

事前学習として、10 月 17 日 (水) に塩竈市魚市場を訪問し、

水揚げから競りまでを見学しました。直接マグロに触れたり、実際の作業に加わったり、現地ならではの貴重な体験をさせていただきました。また、生産者の方々の想いを直接聞くことで、より深い学びを得ることが出来ました。見学後は学んだ知識をまとめたポスターを制作し、解体ショー当日、食堂内に掲示しました。

解体ショーには 100 人近くの学生が訪れ、マグロの部位の説明を聞きながら、生で見る解体ショーに目を輝かせました。



解体ショー後は、捌きたてのマグロを使ったマグロ丼を販売し、多くの学生を魅了しました。

「ひがしものや塩竈について深く学ぶことが出来た」「県内の食品についてもっと知りたいと思った」等の感想があり、地元の食への高い関心が見られ、宮城の魅力を知りたいという、積極的な学生が増えた有意義な企画となりました。

(学生委員 阿部彩香)

### ● 宮城県協同組合こんわ会主催「2018年度IYC学習会」

2月28日(木)JAビル宮城11階大会議室において、宮城県協同組合こんわ会(構成団体:宮城県農業協同組合中央会、宮城県生活協同組合連合会、宮城県漁業協同組合、宮城県森林組合連合会、日専連宮城県連合会)主催による「2018年度IYC学習会」が開催され、宮城県内の協同組合関係者約90人が参加しました。

IYC学習会は、国連が2012年を国際協同組合年(International Year of Co-operatives : IYC)と宣言した以降、協同組合の価値や現代社会で果たしている役割等について理解を深めるため、年1回継続的に開催しています。

地方創生の実現に向け、地場産業の発展と地域経済の活性化が求められています。そうしたなか、農山村再生をはじめとした地域づくりや高齢化、人手不足などの地域課題に対して、地域における多様な主体の相互連携の取り組みが行われ始めています。2018年4月には日本協同組合連携機構(JCA)が発足するなど、協同組合間・他業種間の連携事例研究も進んでいます。

今回、宮城県における協同組合間および協同組合と他業種との相互連携に関する取り組みの可能性を探るため、学習会が開催されました。

はじめに、協同組合こんわ会会長の高橋正JA宮城中央会会長より開会の挨拶がありました。

基調講演があり、「協同組合は地域にどう関わるか—“田園回帰”時代の地域づくりのもとで」をテーマに、法政大学現代福祉学部の凶司直也教授よりご講演いただきました。「地域」の捉え方は一人ひとり違うこと、現在の地域社会の変化・トレンド及び課題についてお話いただきました。協同組合として、「地域」をどのように捉えるかについて、大変示唆に富む講演をいただきました。

次に、事例報告として『『みやぎサーモン』ブランドの確立』について、宮城県漁業協同組経済事業部の山下貴司さんからご報告していただきました。1976年より始まった志津川産「ギンザケ養殖」について、2011年の東日本大震災による被害を乗り越え、地理的表示(GI)保護制度を活用しながら、宮城のブランド製品にしていくための取り組み報告がありました。2013年にみやぎ銀ざけ振興協議会を設立するとともに、JA全農みやぎと連携した宮城県産飼料用米の餌としての活用、みやぎ生協48店舗での販売を通じた消費者への普及など、協同組合連携の取り組み事例として紹介されまし



講師の凶司直也教授  
(法政大学現代福祉学部)



宮城県漁業協同組合の山下貴司さん

た。

その後、浅野浩一郎森林連専務理事により協同組合間連携の推進に関するアピールが提案され採択されました。(後掲)

最後に、協同組合こんわ会副会長の丹野一雄宮城県漁協経営管理委員会会長から閉会挨拶があり、学習会を終了しました。

「協同組合は地域にどう関わるべきか」と地域の資源を生かした「新しい価値の創造」について学ぶとともに、協同組合間の連携をより一層強化し、地域社会の持続的発展に寄与していくことを確認し合う機会となりました。

## 地産地消のとりくみ

地産地消とは、地域で生産されたものをその地域で消費することを意味する言葉です。消費者の食料に対する安全・安心志向の高まりなどを背景に、生協は地域の消費者ニーズに即応した生産と、生産された農林水産物を地域で消費しようとする活動を通じて、生産者と消費者が結びつく仕組みであり、これにより、消費者と生産者が『顔が見え、話ができる』関係で、地域の農林水産物・食品を購入する機会を提供するとともに、地域の農林水産業と関連産業の活性化を図っていくものです。

### みやぎ生協

#### ● 地産地消の取り組みが「東北農政局長賞」を受賞しました

農林水産省と全国地産地消推進協議会が主催する「平成30年度地産地消等優良活動表彰」食品産業部門において、みやぎ生協が「東北農政局長賞」に選ばれ、1月18日（金）仙台合同庁舎で授与式が開かれました。

受賞理由として、「顔と暮らしの見える産直 めぐみ野」の地産地消の取り組み、生協版 GAP や「めぐみ野」野菜栽培使用農薬基準等を決定し食の安全や自然環境の保全に取り組んでいる

こと、「めぐみ野」米は全量が宮城県産の特別栽培米で生産者に「加算金」の支払い栽培継続を支援していること、「めぐみ野」水産物の商品開発、メンバーと生産者が一緒に全店で普及活動に取り組んでいるなどです。

また、広報誌・ホームページでの情報発信、レストラン「コステリア」における「めぐみ野」及び地元の食材を使った料理の提供等、地産地消を通じた被災地復興と豊かな地域作りに取り



東北農政局鈴木良則局長(左)  
宮本弘理事長(右)

組んでいることなどを評価していただきました。

(生活文化部 和賀恵治)

#### ● みやぎ産直米生産者協議会「第22回総会」開催

1月24日（木）みやぎ産直米生産者協議会の「第22回総会」が松島町で開催されました。

総会アピール「週にお茶碗もう一杯の消費拡大を！」をパールライス宮城の菅井俊彦さんが

読み上げ開会しました。

宮城県の作況指数は平年並みとなったものの、夏の水不足や刈り取り時期の長雨に苦労した年でした。

総会では、「田植え交流」「生き物調査」「バケツ稲栽培」「稲刈り交流」などの年間を通しての交流活動や、30回目の出荷となる「めぐみ野米」をさらにメンバーにアピールする方法についても報告がありました。



めぐみ野米



(産直推進本部事務局長  
佐々木ゆかり)

## 平和のとりくみ

生協は、「平和とよりよき生活のために」をスローガンに掲げています。唯一の被爆国の国民として核兵器廃絶を訴えるとともに、戦争放棄をうたった憲法9条を含めた日本国憲法によさと大事さを学び、話し合い、多くの人々が平和を守るネットワークへ参加する活動を広げていきます。

### 宮城教育大学生協

#### ●「MUE&PEACE～愛は地球を救う～」

私たち宮城教育大学生協学生委員会では、平和部局を中心として「MUE&PEACE～愛は地球を救う～」と題し、組合員に平和について考えてもらう企画を、1月16日(水)・17日(木)に開催しました。

今回のテーマは「子どもと日本」ということで、ユニセフの活動や、戦争、自然災害について扱いました。

百束たき子さんによる「紙芝居で伝える戦争」のお話や、NPO法人 IVY (アイビー) を講師に『世界が100人の村だったら』のワークショップを行ない、世界や日本の子どもの現状について知ることができました。

組合員に平和について考えてもらえる機会となりました。

(学生委員平和部局 CAP

佐藤魁斗)



百束たき子さんから紙芝居で戦争体験を聞く



ワークショップ『世界が100人の村だったら』

### ヒバクシャ国際署名連絡会宮城

#### ヒバクシャ国際署名を呼びかけるポスターを作成しました！

宮城県生協連が事務局として参加している「ヒバクシャ国際署名連絡会宮城」では、多くの署名を集めるため運動をすすめています。昨年、村井嘉浩宮城県知事をはじめ、県内全自治体の首長からご署名いただきました。

2020年に行われるNPT(核不拡散条約)再検討会議までに、さらに多くの方々に署名にご協力いただけるよう、ポスターを作成しました。これまでの再検討会議において、国連に積み上げられた署名が、核兵器禁止条約の採択に大きく寄与したと言われています。

皆様のご協力をお願いいたします。

核兵器のない世界の実現のために  
「ヒバクシャ国際署名」にご協力を！

私たちも署名しました

宮城県内35自治体 全ての首長様にご協力を頂いています

大田原町長 齋藤 清志様	大田町長 田中 學様	大田村長 萩原 連雄様	女川町長 須田 善明様
加美町長 猪股 洋文様	川崎町長 小山 修作様	蔵王町長 村上 英人様	色麻町長 早坂 利悦様
七ヶ浜町長 小嶋 幸一様	七ヶ浜町長 寺澤 薫様	柴田町長 滝口 茂様	松島町長 樺井 公一様
丸森町長 保科 剛雄様	美里町長 相澤 清一様	南三陸町長 佐藤 仁様	村田町長 佐藤 英雄様
山元町長 置藤 俊夫様	利府町長 熊谷 大様	清谷町長 大橋 信夫様	沼津町長 山田 尚伸様
仙台市長 郡 和子様	角田市長 大友 喜助様	石巻市長 龜山 結様	名取市長 山田 司郎様
塩竈市長 佐藤 昭様	多摩郡市長 菊地 健次郎様	白石市長 山田 裕一様	郡山市長 菊地 啓夫様
登米市長 熊谷 盛廣様	大崎市長 伊藤 康志様	富谷市長 若生 裕俊様	栗原市長 瀧美 巖様
千葉 健司様			

ヒバクシャ国際署名連絡会宮城 <連絡先> 022-243-2158 本wondershare

## 環境のとりくみ

生協の環境活動は、生協組合員の活動や事業における取り組みを通して、環境負荷の軽減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献していきます。組合員のライフスタイルの見直し、生産から流通・消費・廃棄までの製品のライフスタイルの各段階における環境負荷の低減等をすすめます。

### みやぎ生協

#### ●「環境フォーラムせんだい2018」でSDGsの取り組みをアピール

12月2日（日）せんだいメディアテークにおいて、「環境フォーラムせんだい2018」が開催され、みやぎ生協は「わたしたちの取り組み SDGs」をテーマにブース参加しました。このフォーラムは、市民・NPO・大学・行政などの団体で実行委員会を構成し、楽しく「環境」について学ぶ場として開催しています。

みやぎ生協のブースでは、SDGsの12番目の目標「つくる

責任 つかう責任」を中心に、商品利用を通じた環境配慮行動やエシカル消費などについて、タペストリーの掲示やクイズなどを通じてお知らせしました。また関連商品を展示し、MSC（海のエコラベル）認証やFSC（森林認証）マークなど、商品とマークの結びつきなどを確認できるようにしました。

来場者からは「SDGsの意味がわかりました。生協が率先し



て取り組んでいることを初めて知りました。商品が作られる過程も考えていきたいですね」などの感想をいただきました。

（生活文化部 昆野加代子）

### 生協あいコープみやぎ

#### ●卵パックを紙製に変更しプラスチックを削減

5年程前初めて「マイクロプラスチック」という言葉に出会いました。合成洗剤や化粧品にも含まれる直径5mm以下の微細なプラスチックビーズや、野外に放置されたペットボトルやレジ袋が細分化されたプラスチック片、さらに化学繊維もマイクロプラスチックとなり、海中で有害物質と結びつきながら、世界中の海を漂っています。

石けん環境委員会では、高田秀重教授（東京農工大学）を講師に学習会を4年連続で開催し

ながら、親子で菖蒲田海岸（七ヶ浜町）に打ち上げられたプラスチック片の調査や、海岸の清掃活動を行いました。その活動を委員会ニュースで発信してきました。

こうした組合員活動での学びと問題提起を受けて、あいコープみやぎは事業で使用するプラスチックの削減を検討して、今年4月から卵パックを紙製に変更することにしました。包材変更で、7.4トンのプラスチック使用を削減することが出来ます。



良くも悪くも技術が進んだ日本では、プラスチック製品の方が低コストで便利です。あいコープもその恩恵を受けているのも事実です。できないこともありますが、理事会として引き続きプラスチックの減量を検討していきます。

（理事 佐藤美恵）

## 消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ(略称:消費者懇)は、安心して食生活・消費生活をおくれる環境を求めて、食品の安全行政、消費者行政の充実強化を目指し、宮城県内の消費者組織の連携をはかり、消費者運動を促進することを目的として活動します。【構成団体】宮城県生活協同組合連合会、NPO法人仙台・みやぎ消費者支援ネット、宮城県地域婦人団体連絡協議会、宮城県消費者団体連絡協議会、みやぎ生活協同組合、生活協同組合あいコープみやぎ、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

### ●「2018年度第2回食品の安全行政部会・消費者行政部会」を合同開催

1月22日(火)フォレスト仙台2階第5会議室において、「2018年度第2回食品の安全行政部会・消費者行政部会」を合同開催し、宮城県担当部局との交流会を行いました。各構成団体から部会メンバーの他、理事や職員など25人が参加しました。

はじめに、野崎和夫座長(県生協連専務理事)が開会挨拶を行いました。

学習として、宮城県の食の安全の取り組みや、食衛法等の一部改正への対応などについて、宮城県環境生活部食と暮らしの安全推進課食品企画班長の高橋秀知課長補佐と食品安全班の工藤剛技術主査からお話



宮城県の担当部局の方々

環境生活部 食と暮らしの安全推進課	高橋秀知課長補佐 (食品企画班長) 工藤剛技術主査 (食品安全班)
環境生活部 消費生活・文化課	阿部信明課長補佐 (相談啓発班長)

いただきました。

みやぎ食の安全安心推進条例と食の安全安心の確保に関する基本的な計画(第3期)の施策内容、2018年6月13日公布の食品衛生法等の一部を改正する法律の概要、7項目の主な内容ですべての食品事業者に対し義務化されるHACCPが国内中小規模事業者の普及率が低いこと、営業許可制度の見直し及び営業届出制度の創設、食品表示法の一部改正についてなど、大変分りやすくお話いただきました。

続いて、平成29年度の消費生活相談の実績と傾向及び宮城県消費者教育推進計画の実施状況について、宮城県環境生活部消費生活・文化課相談啓発班長の阿部信明課長補佐から説明がありました。消費生活相談の状況について、ハガキによる架空請求の相談件数が前年度の8件から209件になったこと、インターネットの普及による通信販売に関する相談件数が各年代で最も多くなったこと、マルチ・マルチまがいに関する相談は全体では減少傾向にあるが20歳代だけが多いこと、また関係機関との取り組み



として、県・県警・河北新報社で「みやぎ消費者被害ゼロキャンペーン」を実施していること、高齢者の消費者トラブルを地域で防ぐためのツール「見守りワークブック」などについて、お話いただきました。

質疑応答のあと情報交流を行い、参加者から各所属団体の取り組みについての報告がありました。生協コープ東北サンネット事業連合品質管理本部商品安全対策室の須崎克己室長から2018年度末までに日生協として店舗事業のHACCPのガイドラインを取りまとめる予定であることや、生協あいコープみやぎの高野恵美子副理事長から取引先企業や生産者に対し、HACCP義務化の学習会を実施したが、業態により課題が異なるため大変だったことなどの報告がありました。

その後、部会を開催し、2019年度活動方針・計画案について協議しました。

## 消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動

「消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城(略称:消費税ネット)」は2003年に設立され、消費税率引き上げに反対する一点で集まった宮城県内の事業者・消費者の団体・個人のネットワークです。前身は、1978年に同じように商業者団体、市民・消費者団体など多数の幅広い団体が集って結成した「一般消費税を止めさせる宮城県民会議」です。会員数は、団体37、個人58です。(2018年3月現在)

### ● 講演会「私たちのための税制とは？消費税だけが税金じゃないよ!!」

2月5日(火)エル・パーク仙台5階セミナーホールにおいて、消費税ネット主催による講演会を開催しました。生協、消費者団体、日専連、宮商連などの関係者、事業者、一般市民など約80人が参加しました。

三戸部尚一代表世話人(宮城県商工団体連合会会長)の開会挨拶後、税理士の内田麻由子さんをお迎えし、『私たちのための税制とは？消費税だけが税金じゃないよ!!』と題してご講演い

ただきました。

内田さんは、「会社員などの多くは、税金の意義や仕組みが分からないため、税金は取られるものという印象を持っている。多くの人は税金に対して無関心なことから、高齢化のための社会保障財源に消費税増税が必要だと言われると納得してしまう。国の税収を見ると、法人関係の税収よりも個人からの税収が上回っており、このままの割合の税収で本当にいいのだろうかを



講師の内田麻由子さん(税理士)

国民が考える必要がある」と強く訴えられました。

大越健治代表世話人(みやぎ生協専務理事)が閉会挨拶を行いました。

### ● 10月からの消費税10%中止を求める国会請願署名の取り組み

安倍首相は、消費税増税によって全世代型の社会保障に転換し、財政健全化を進めると述べる一方で、2019年度から2年間の予算は経済への悪影響を確実に平準化できる規模で編成する方針を明らかにしています。社会保障費が高齢化にともなう伸びに加え、幼児教育無償化の費用なども盛り込み、キャッシュレス決済でのポイント還元・プレミアム付き商品券の発行・次世代住宅ポイント制度・消費税増税での景気対策への費用など、増税による景気腰折れを防ぐための、まさに大盤振る舞い

の予算編成です。

消費税率10%への引き上げと同時に、複数税率(軽減税率)が導入されます。政府は「低所得者に配慮する観点から“軽減税率”を実施する」と宣伝していますが、飲食料品の値段が上がらない保証はどこにもありません。

昨年12月、映画監督の山田洋次さんなど、著名な10氏が呼びかけ人となり、消費税10%の中止を求める「10月消費税10%ストップ!ネットワーク(略称:10%ストップ!ネット)」を立ち上げ、『消費税、いま上げるべきではない』の国会請願署

名への取り組みが始まり、消費税ネットもこの趣旨に賛同し、「10%ストップ!ネット」の国会請願署名に取り組むことにしました。(後掲)

数多くの署名を集めるため、2月と3月に実施する街角宣伝行動における署名活動や、各会員団体での取り組みなどを行ないました。「10月からの消費税10%引き上げ中止」の1点で結束し、全国的な運動にすることで、多くの署名を集め「消費税10%」引き上げ中止に追い込むため、皆様のご協力をお願いいたします。

## NPO 法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。私たちは知識と力を合わせ、良質な介護・福祉サービス提供と健全な事業運営のために、いっそうの研修にはげむとともに、情報を共有し、ネットワークをひろげます。もって子どもから大人まですべての人の人権が尊重されるまちづくりと、地域住民の福祉向上に資することをNPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)の目的としています。会員数は正会員 20 団体、個人正会員 19 人、団体賛助会員 3 団体、個人賛助会員 57 人です。(2018 年 7 月現在)

### ● 2018 年度「第 5 回実務担当者会議拡大研修会」

介護・福祉ネットみやぎは、良質な介護サービスの提供と、健全な事業運営の実現を目指すネットワーク組織です。ネットワークの運営や活動を検討する目的で団体正会員 20 団体による実務担当者研修会を定期的で開催しています。

今年度 5 回目となる研修会を、2 月 13 日(水)に開催し、67 人が参加しました。

一連の社会保障制度改革では、高齢化の進展による社会保障費の増大から、公的給付の抑制と国民の負担増を求める状況が続いています。そのような中、2018 年は、高齢者の介護を保障する制度である介護保険制度と介護事業所に介護サービスの対価として支払われる介護報酬の改定が行われました。

研修には、日本生活協同組合連合会福祉事業推進部の山際淳部長をお迎えし「どうなる！介護保険制度のゆくえ」と題して、社会保障制度改革のもとで実施された介護保険制度の見直しとその影響について、また、政府が示している次期介護保険法改定の方向性と課題についてお話いただきました。

改定内容は「地域包括ケアシステムの推進」「自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現」「多様な人材の確保」「介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保」などを基本的視点とし、その中身は、更なる社会保障サービスの削減と利用者負担を一層強める制度見直しとなっている、と解説い

ただきました。

また、介護報酬は、小幅なプラス改定になったものの、事業所が現状で抱えている困難を解決するには程遠い水準であると言わざるを得ません。

今後の報酬改定は、改定率よりも利用回数制限など給付費が管理されること。また、自立支援介護の成果主義報酬、介護ロボットや AI を活用した「科学的介護」への移行が目指され、介護事業のあり方そのものが問われるとお話いただきました。

学習を通し、国の動向や介護保険法改定について学び、これからの課題を考える機会となりました。

(事務局長 渡辺淳子)

どうなる！  
介護保険制度のゆくえ



講師の日本生協連福祉事業推進部部長の山際淳さん(左)  
参加者から介護保険制度について質問がありました(右)

## 適格消費者団体NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動

NPO 法人消費者市民ネットとうほく(略称:ネットとうほく)は、消費者被害の未然・拡大防止及び救済のため、消費者や消費者団体・関係諸機関・消費者問題専門家等と連携し、各種消費者被害の調査・研究・情報収集、是正申入等の活動によって、消費者全体の利益擁護、消費者の権利の確立に寄与することを目的に活動している内閣総理大臣認定の適格消費者団体です。

### ● 2018年度「第5回ネットとうほく消費者被害事例ラボ」 ～高齢者賃貸契約における身元保証問題～

1月21日(月)18時30分から仙台弁護士会館において、「2018年度第5回消費者被害事例ラボ」を開催し、学識者、弁護士、消費生活相談員など22人が参加しました。

今回は「高齢者賃貸契約における身元保証問題」をテーマに、岩手県立大学総合政策学部の窪幸治准教授が報告しました。

身元保証等高齢者サポート事業は、高齢者を対象とした病院、福祉施設等への入院・入所時及び賃貸住宅入居時の身元保証、在宅時の日常生活サポート等の支援、死後の事務等に関するサポートが定義となっています。

窪幸治准教授からは、「問題点のひとつとして、賃貸物件入居時契約内容の複雑さや費用体系の不明確さ等が上げられる。65歳以上の人口は、平成29年10月現在3,515万人(全人口の27.7%)となり、超高齢社会を迎え、高齢者の経済的な状況、住まい、預託金保護、日常生活支援など、それぞれ多くの問題を抱えています。しかし一方で、色々な制度ができていない事も多く、周知させるための情報提供が必要であり、本当に利用したい人が使えない状況もあり、今後、社会・地域全体が支える仕組みが必要では



講師の窪幸治さん  
(岩手県立大学総合政策学部准教授)

ないか」との報告がありました。

意見交換では、「対物助成から対人助成へ、セーフティネットの多重化が必要であり、制度設計に弱者視点が欠けているように感じる」との意見も聞かれました。(事務局 金野倫子)

#### 「消費者トラブル」 情報提供のお願い



消費者トラブルは、私たちが生活している中で、誰もが経験することです。「小さなトラブルだからいいわ」とは思わずに、身近な消費生活センターや消費生活相談窓口にご相談ください。  
(消費生活センター☎局番なし188番)

また被害拡大を防止するため、ネットとうほくに情報提供をお願いします。提供いただきました情報をもとに、弁護士、学識者、消費生活相談員などの専門家が、被害実態の調査や法的な問題点を検討し、事業者に改善を求めています。  
(ネットとうほく☎022-727-9123)

#### みなさんは、このようなことで困ったことはありませんか？

家の無料点検を受けたらリフォームをすすめられた



お試し購入のはずだったのに、2回目、3回目が届き、2回目からは高額な請求がされた

インターネット通信販売を利用したが、商品が届かない

#### また、危ない、おかしいと思ったことはありませんか？

整体マッサージで痛みをこらえていたら骨折した

モバイルバッテリーを使用したら突然発火した



## 宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。2011年4月1日より「公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織 宮城県ユニセフ協会」と名称が変更になりました。県内唯一の団体としてユニセフの広報・啓発・募金・学習支援などを活発に展開しております。(設立:1995年 会員数:一般・学生 193人 団体7)

### ●「第40回ユニセフ ハンド・イン・ハンド」

“手に手をとって”を意味する「ユニセフ ハンド・イン・ハンド」は、1979年の国際児童年に始まり、2018年で40回目を迎えました。毎年11月から12月を「ハンド・イン・ハンド募金月間」とし、街頭やイベント、学校職場など日本全国で取り組まれています。誰でもボランティアとして参加でき、一人ひとりの力が広がって大きな力となる募金活動です。

今回のハンド・イン・ハンドのテーマは、「すべての子どもに5歳の誕生日を」。

1990年当時、年間1,260万人もの子どもたちが5歳の誕生日を迎えられずにいました。みな

さまからのご支援のおかげで、2017年にはその数が540万人と改善されました。しかし、今も約6秒に1人の幼い命が失われています。予防接種で簡単に防げる感染症や下痢による脱水症状、栄養不良などで命を落としています。医療施設や薬も不足している場所で、人知れず命を落とす子どもたちが存在しています。世界の子どもたちに生きるチャンスを、育つチャンスを、学ぶチャンスを届けようという思いで取り組まれています。

宮城県ユニセフ協会では、12月23日(日・祝日)に、仙台市青葉区一番町(フォーラス付近、

中央通り水晶堂付近)で実施しました。

ユニセフボランティアを中心に、ガールスカウトのみなさんや毎年参加している親子、当日参加のみなさん、みやぎ生協の理事のみなさんなど80人が参加しました。

子どもたちの元気な掛け声が街に響き、道行く人々が足を止めて募金にご協力くださいました。わずかな時間にもかかわらず、155,492円の募金が寄せられました。ボランティアとしてご参加いただいたみなさん、募金にご協力くださいました市民のみなさま、ありがとうございました。



©UNICEF/UN0160503/Soares

第40回ハンド・イン・ハンドのテーマは、  
すべての子どもに5歳の誕生日を

東ティモールの  
アリファちゃん



募金を呼びかける参加者のみなさん

寄せられましたユニセフ募金は、すべての子どもの命と権利を守るため、保健、栄養、水と衛生、教育、暴力や搾取からの保護、HIV/エイズ、緊急支援、アドボカシーなど、ユニセフが実施する支援活動の資金となります。

ユニセフの活動はみなさまからのご支援に支えられています。引き続きのご支援をお願いいたします。

(事務局長 高橋誠子)

## 公益財団法人 MELONの活動

公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(Miyagi Environment Life Out-reach Network) MELONは、みやぎ生協・JA 宮城中央会・県漁協・県森連・日専連の県内で活動する協同組合が中心となって設立され、1995年12月に財団法人化し、2012年2月より公益財団法人に移行しました。MELONは、緑と水と食を通して地球と地球環境保全の活動を行なっています。会員数は個人 525、法人 64 団体、任意団体 9 団体です。合計 598 です。(2/5 現在)

### ● 勾当台公園で薪ストーブ、ペレットストーブに親しんでもらいました！

#### 木を使って森を元気に！『薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ』

2月2日(土)勾当台公園市民広場において、毎年恒例となりつつある薪ストーブ・ペレットストーブの体験イベントを今年も行い、約600人の方に来場していただきました。

前日に冷え込み早朝には雪も舞った仙台ですが、当日は晴れて気温も平年並み。昼過ぎから強風が吹き荒れたために多少早めに撤収せざるをえませんでした。この時期にしては十分イベント日和だったと思います。

例年通り仙台近郊の薪ストーブ・ペレットストーブの多くの販売店にご参加いただき、ストーブの展示・燃焼の実演、ピザや豚汁などの試食、焼き芋や焼

き菓子の販売などを行いました。

それに加え今年も、会場の一角でチェーンソーアートの展示・実演を行い、チェーンソーだけで丸太が見る見る鳥の形に変わっていくさまに、来場者はビックリしていました。

その他には、薪割りを体験していただけるコーナーや木工品の展示販売、薪ストーブ・ペレットストーブ用のグッズ販売などもあり、多彩なブースに多くの方が訪れました。

薪ストーブ・ペレットストーブは、まだ高価なものが多いですし、設置できる条件等が限られるため、誰でもが設置できるわけではないですが、木質バイ

オマスの活用という意味では、気候変動の防止にも寄与するものですし、何よりストーブの中で燃える火を見ることで気持ちも暖くなる不思議な効果のあるものだと思います。

それに、一度でも人の手が入った里山の木は、定期的に切って活用することが山を元気にするためにも重要な作業になります。

このイベントをきっかけに、少しでも多くの方が薪ストーブやペレットストーブを設置し、山や木の大切さを理解して活用することにつながればうれしいです。

(事務局統括 小林幸司)



来場者で賑わう会場の様子



薪ストーブの説明を聞く来場者

チェーンソーアートのコーナー



## 行事予定

### 消費税ネット「第17回総会 & 記念講演」

記念講演テーマ

「消費税の増税は本当に必要なの?!」

日時 2019年6月5日(水) 10:00~12:00

\*総会 10:00~10:30

\*記念講演 10:30~12:00

講師

ジャーナリスト  
齋藤 貴男さん



場所 エル・パーク仙台 6階 ギャラリーホール  
仙台市青葉区一番町 4-11-1 三越定禅寺通り館 6階

定員 200人

参加費 無料



アベノミクスで、給料が増えて生活が楽になったという人は、少ないのではないのでしょうか。それどころか、消費税増税、社会保障費・物価などが上がり、同じ給料でも苦しくなっている人のほうが多いと思います。みなさんは、消費税率の引き上げは必要だと思いますか？

消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城  
仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5階  
TEL:022(276)5162 FAX:022(276)5160

### 2019年度 宮城県生協連スケジュール

	開催日時		会場
第50回通常総会	2019年6月19日(水)	10時30分開会	フォレスト仙台 2F フォレストホール
第1回理事会	6月19日(水)	総会終了後	フォレスト仙台2F 第2会議室
第2回理事会	9月10日(火)	13時30分開会	フォレスト仙台 5F 501号室
第3回理事会	12月17日(火)	13時30分開会	フォレスト仙台 5F 501号室
第4回理事会	2020年3月10日(火)	13時30分開会	フォレスト仙台 5F 501号室
第5回理事会	5月19日(火)	13時30分開会	フォレスト仙台 5F 501号室
宮城県生協組合員集会	2019年9月25日(水)	10時00分開会	仙台サンプラザホール